

# 一般社団法人日本臨床検査専門医会 2024年度 第6回理事会議事録

開催日時：2025年3月15日（土曜日）15時00分～16時40分

場 所：日本臨床検査医学会事務局、ZOOMによるハイブリッド会議

現地出席者：〆谷直人理事長、山田俊幸副理事長、村上正巳（庶務担当）、田部陽子、  
福地邦彦、幸村近、松下一之、鯉渕晴美 各常任理事  
浅井さとみ 理事  
佐藤尚武 選挙管理委員会委員長  
菊池春人、東條尚子 各監事

WEB出席者：増田亜希子(会計担当：15時15分～30分)、尾崎敬各常任理事  
藤井聡、植木重治、山崎正晴、北中 明 各理事

欠 席 者：山田鉄也、橋口照人 理事

事 務 局：大和田有美子

Web会議システムにより、全出席者の音声と映像が即時に他の出席者に伝わり、的確な意見表明ができることが確認されたため、定刻、〆谷理事長が開会を告げ、〆谷理事長が議長となり、開会を宣し、議事に入った。

## <審議事項>

### 第一号議案 2025年度予算案について

増田会計担当常任理事のWEB接続が確認できたため、議長より説明が求められた。増田会計担当常任理事より資料に沿って収支予算、特筆すべき項目について説明があった。基本的には、2024年度実績に基づいて作成されている。年次大会の収支計上は提出された第4回年次大会収支予算に基づき記載した。事務所維持費は家賃の上昇があるが、他の削減などにより、軽微な増加に抑えた。その他は実績に基づいており特別な収入・支出はなし。議長が議事を諮ったところ、満場異議無く承認された。

### 第二号議案 2025年度行事予定について

議長より村上庶務担当常任理事に説明を求めた。村上庶務担当常任理事より、資料に沿ってまずは4月の第1回理事会の主な議題が決算承認と定時社員総会招集である旨が説明された。開催日は4月26日である。また、年次大会時の定時社員総会の理事候補、監事候補承認、新理事会、について確認があった。その他は例年に倣った行事が活動予定として示され、一部、日付、理事会回数などの資料訂正が確認された。議長が議事を諮ったところ満場異議無く承認された。

## < 報告事項 >

### 1. 選挙管理委員会報告

選挙管理委員会佐藤委員長より、今年度実施の理事候補選挙、監事候補選挙の結果について資料の通り説明があった。候補者は理事 9 名、監事 1 名で選挙管理委員会規定第 3 条により、定数を超えなかったため、選挙は実施せず、選挙理事候補・監事候補が選定されたことが報告された。なお、今年度から選挙を開催する場合は WEB 選挙を予定していたが、次回以降に持ち越しとなる旨の補足説明があった。

〆谷理事長より、今後の流れとして、次期理事長については理事候補者の互選となること、5 月の社員総会で理事候補・監事候補の承認を依頼することの、補足があった。

### 2. 各種委員会報告

#### 1) 情報・出版委員会

福地委員長より、資料に基づき JACLaP NEWS、Lab CP、ラボ、JACLaP WIRE、について報告があった。NEWS に関して、2025 年度より主幹の変更を予定していたが、後任者未定のため役員改選後に次期体制で決めて欲しいと発言があった。後藤委員からの引継ぎ、次号準備は、福地委員長が担当する。Lab CP 既刊最新号は第 3 回年次大会をテーマとして、尾崎大会長の協力により大変充実した出来上がりとなった。資料の通り、いくつか課題も見つかったため、次号以降で改善していく。次号も企画が進んでおり、昨年 11 月に行われた臨床検査医学会学術集会中の行事をテーマとする。その中で、全国技師長会議の内容を論文化したいと希望が上がり、関係各所に確認をとり、調整がついたため掲載を予定している。日本衛生所協会 協会誌「ラボ」の専門医会担当ページは資料の通り、今年度分は順調に掲載が進んでいること、また、すでに立案済みの来年度分について説明があった。担当出居委員は交代の予定。JaCLAPWIRE は順次配信中。情報委員会委員会規定を 11 月 29 日から改定した。

#### 2) 教育研修委員会

鯉淵委員長より、資料に基づき、教育セミナーの準備状況についてプログラムを示し日程、講師などの報告があった。講師については前年度から 1 名変更があった。合格体験談は今年度から 4 名に増やし、ベテラン医師から 2 名、初期研修が終わってから直に臨床検査専攻医になった若手医師から 2 名とした。次に、教育セミナーの内容を臨床検査医学会と共有したことについて報告があった。臨床検査医学会からの申し出により、理事長の許可をとった上で、試験実行委員会佐藤雅哉委員長（時期）に 2024 年度の教育セミナー内容を提出した。共有については、これまでも本会理事会で議論を重ねてきたが、臨床検査医学会からの申し出であり、試験作成の時期最中であることから対応を急ぐ必要があったため、共有は相当と判断し、理事会の審議には挙げず、理事長に許可を受け提出したと経緯について補足説明があった。

### 3) 資格審査規定改定委員会

田部委員長より、資料に基づきまず、新しい会員システム Gsystem の導入にあたり、新入会の方法が変わったため、添付資料を回覧し、委員会で入会方法変更の審議をしたことが報告された。承認の過程は変更無し。すでに、新システムを使って、前回以降 4 名の入会審査を委員会で承認し、理事長に承認依頼をした。

### 4) 広報・ネットワーク委員会

尾崎委員長より資料に沿って、レジデントノート部門、ネットワーク BBS 部門、イベント部門の 3 体制でそれぞれ、活動をしている旨説明があった。2025 年度もこども霞が関見学デーの共催開催を予定している。昨年どおり、臨床検査医学会を通して専攻医の募集をし、参加者には参加証明書を発行する。募集時、専門医会所属の専攻医を優先することも昨年通りである。つなぎ委員会のイベントも昨年通り、参加を予定している。イベント前後の 10 月、11 月は本会ホームページへのアクセス数が増えており、一定の広報効果が認められている。今後の活動への参加方法は検討中。昨年から本イベントも、臨床検査の啓発活動と認識し、協力者に参加証を発行した。引き続き同様に専攻医を中心に協力者を募り、参加証を発行する。レジデントノートについては、今年 7 月発行をもって本会広報ネットワーク委員会としての関りは終了し、臨床検査医学会広報委員会に引き継ぐ。ネットワーク BBS 部門に関して、今年 2 月に最新の書き込みがあったことが報告された。引き続き、掲示板を維持する予定。昨年中検討が重ねられたホームページがアンコンシャスバイアスに抵触するのではないかとという点について、写真の変更などによって改善が見られたと報告があった。スマホ画面の対応は続けて改修を重ねる予定。

メ谷理事長より、専攻医の募集について、本会所属の専攻医を優先しつつ、今後も臨床検査医学会と連携をとるようにと発言があった。さらに、長く続いたレジデントノートの連載、ホームページの改修や、掲示板の対応などへの労いの言葉があった。

### 5) 保険点数・データシステム委員会

松下委員長より資料に沿って、令和 8 年度診療報酬改定について説明があった。診療報酬改定に向けて、臨床検査医学会、臨床検査振興協議会と共同で、アンケート等で得た情報をもとに、提案書作成を進めている。本会からは 7 項目を予定しており、一部、分担をして作成している。4 月 10 日ごろに、最終提案書をまとめて内保連に提出を予定している。その後、内保連のヒアリング、厚労省のヒアリングなどが予定されている。次に医療 D X について、検診領域で主に進めたいという流れが起きており、JLAC10 から JLAC11 への切り替えが進められている。JLAC センターが稼働開始をしており、サポートをしていく。軌道に乗った段階で点数化する計画がある。

これらの報告を受け、メ谷理事長より、診療報酬改定の作業は大変だろうが、よろしくお願ひしたいと発言があった。

## 6) 渉外委員会

幸村委員長より資料に沿って、報告があった。第42回臨床検査振興セミナーは、今年7月18日に昨年と同じ、お茶の水ソラシティカンファレンスセンターで開催を予定している。テーマは「医療DXと臨床検査」を予定とし、演者も候補を選定している。候補者が全員非会員のため、経費に懸念がある。座長は未定のため、理事の先生方を中心に協力をお願いしたいと思っている。ㄨ谷理事長より、謝金・交通費等規定に従い支払いをするが、セミナーのスケジュールからして宿泊費は支払いできないとの発言があった。尾崎常任理事より、振興セミナーは現地開催のみか、WEB開催もあるかとの質問があった。幸村委員長は、現在ハイブリッド開催は予定していないとした上で、希望が多かった場合は検討の余地があるがこの場では回答を控えると答えた。

ㄨ谷理事長は、賛助会員との交流を目的としているためWEB開催は考えられないが、内容が良かった場合、論文化して、LabCPへ掲載し、会員に共有する方法があると発言した。

## 3. 第4回年次大会準備状況について

議長より幸村大会長に説明を求めた。幸村会長はまず、資料を示し、今年5月23日～24日に開催予定の第4回年次大会の開催概要について、会場の説明をした。協賛金について、ㄨ谷理事長、山田副理事長、村上庶務担当常任理事の協力があり、増額したことを報告し、謝辞を述べた。チラシ、ポスター、ホームページなどは安価に抑える努力をした。現在、抄録を作成中である。内容は先般発行したJaCLAPNEWSを参照して欲しい。共通講習も2講演準備した。ランチョンセミナーも含め、講師は殆ど、北海道に縁のある先生をお願いした。山田副理事長より、共通講習について、確認があり、幸村委員長は「感染対策」と「地域医療」であると答えた。

ㄨ谷理事長より、来年以降の専門医更新は共通講習単位の取得の仕方が変わってくる、本会ではB項目の講習を意識して開催し、更新を援助していきたいと発言があった。

## 4. 第72回学術集會中行事について

議長より山田副理事長に説明を求めた。配布資料が無かったため、スクリーンに提示された資料を示しながら、今年8月28日～31日に開催される臨床検査医学会学術集會中における本会行事について説明があった。29日に開催予定の、共催シンポジウムテーマは「関連領域の専門医制度に学ぶ」とした。現在関連団体から講師を選定している。臨床検査専門医に関しては、松下弘道先生に依頼を予定している。次に、28日に開催される臨時社員総会講演会は「2040年に向けた社会保障制度の課題と展望」をテーマとし、専門医共通講習B「医療福祉制度」1単位を申請予定している。山田副理事長より、共通講習B項目について説明があり、今後もB項目が取得できるような講演を企画していきたいので、理事の先生方も意見を寄せて欲しいと依頼があった。

議長は、追加の質問・発言がないか議場に諮った。WEB で参加の各理事より挨拶と近況報告があった。山田副理事長より、賛助会員の一覧掲載について質問があった。参照し、賛助会員になっていない会社に働きかけをすることを目的とする。議場より、「要覧」「ホームページ」掲載があると回答があった。松下常任理事より、「特定機能病院」に関する厚労省の動きに関して情報共有がなされた。今後、「臨床検査科」に関する議論が必要になることが予想される。臨床検査医学会では今は様子見の段階で正式な決定がでたら動き始めるようである。久谷理事長より、本会でも今後検討していきたいと発言があった。尾崎常任理事より、共通講習の更新単位取得可能な講習会を知る方法について、質問があった。議場より、専門医機構のホームページに掲載があるとの回答があった。特に追加の議事は出ず、以上をもって議事・報告の全てを終了した。議長は閉会を宣した。

所用により、増田常任理事は途中参加・退出、植木理事は途中退出となった他は、参加者全員、通信が途切れることもなく、閉会までつつがなく議事が進行された。

以上、議事・報告事項について本議事録を作成し、出席理事長及び出席監事は次に記名押印する。

2025年4月26日

理事長 久谷 直人 印

2025年4月23日

監事 菊池 春人 印

2025年4月23日

監事 東條 尚子 印